

だいきく通信 第六十五号 「夏の号」

いあーやっ

厳しい暑さが続いております。先日（令和八年七月二十八日）熊本で大きな地震が発生しました。被害に遭われた皆様にご心よりお見舞い申し上げます。また、今年は全国で台風の被害が出ており、「線状降水帯」などということばもよく耳にします。くれぐれもお気をつけてお過ごしいただければと思います。

世界に目を向けますと、さまざまな地域での紛争がいまだに収束の兆しを見せていません。日本でも、世界でも、一日も早く平穏な日々が戻ることを祈らずにはいられません。

社報「だいきく通信」第六十五号をお届けします。今回の内容は、新年のご祈祷受付時間、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社の今

○だいきく落語会を開催

来たる十月十日、当神社拝殿にて第十二回だいきく落語会を開催します（午後三時半開場・午後四時開演）。おなじみ古今亭菊之丞師匠をお迎えしての独演会です。



（古今亭菊之丞師匠）

お宮あれこれ アマテラスの話

三重県伊勢市に鎮座する神宮（写真）

「一般には伊勢神宮と呼ばれますーでは、二十年に一度社殿を新しく造り替えて神様にお遷りいただく「遷御（せんぎよ）の儀」という行事がおこなわれます。遷御の儀までは八年余りにわたって三十もの儀式が続きます。今回の遷御の儀は令和十五年におこなわれます。それにむけて昨年（令和七年）には最初の儀式である「山口祭」がおこなわれ、今後順次儀式が執りおこなわれていきます。この一連の儀式は一般には「遷宮」と呼ばれています。



伊勢神宮の皇大神宮（内宮）にお祀りされているのが「アマテラス」という神様です。今回はアマテラスについてお話ししましょう。

まず、アマテラスという神名は動詞「あまてる（天照）」に尊敬の助動詞「す」の付いたもので、「天に輝いていらつしやる」という意味をあらわします。この名前が示す通り、アマテラスは太陽神的な性格をもつ女神さまで、古事記・日本書紀の神話に登場します。

『古事記』では、アマテラスは、伊邪那岐命（イザナキノミコト）がみそぎで左目を洗った際に生まれたとされます。また、同時に右目からは月読命（ツクヨミノミコト）が生まれたと記されています。『日本書紀』では、「光華（ひかり）明彩にして六合（くに）の内に照り徹れる」と書かれており、「日神（ひのかみ）」とも呼ばれています。アマテラスが太陽の神として捉えられ、月の神であるツクヨミとともに、「天の目」として捉えられていることがうかがわれます。

アマテラスにまつわる神話で、もっとも有名なものが



「天の岩戸」と呼ばれる話です（図は春斎年昌・画「天岩戸神話の天照大御神」）。アマテラスは、天の高天原（たかまがはら）の統治を命じられ天に昇るのですが、弟のスサノオの乱暴に怒って天の岩屋戸（あまのいわやど）にこもります。すると、世の中は暗闇となってしまいました。困った神々は一計を案じ、天宇受売（アメノウズメ）に岩戸の前で踊ってもらうことにします。その様子をみて皆ではやしたてていると、アマテラスは「私がここにこもっているのに、なぜあんなに大騒ぎをしているのだろう」と不思議に思い、岩屋の戸を少しだけ開けて覗きます。そのとき、アメノウズメが「あなた様より立派な神様がいらつしやいますので、歓び笑っているのです」と言います。そして、別の神が鏡をさし出してアマテラスに見せます。アマテラスはいよいよ不思議に思い、戸から出て、鏡に映った自分の姿を見ようとします。そこで、力持ちの手力男命（タヂカラノオ）がアマテラスの手を取って岩戸から引き出し、世界は元通り明るくなりました。この話には宮廷の儀礼である鎮魂祭が重ねあわされているとされます。

天の岩屋戸ごもりに先立って、アマテラスとスサノオ（図は歌川国輝・画「本朝英雄傳」より）は互いの玉と剣を交換し、誓約（うけい）という儀式をおこないます。これは、何らかの行為をするこ



はかるものです。ここでは、スサノオが男子を生めば心が清いと定め、スサノオはアマテラスの持ち物から男の神様を生まれさせています。そのため、スサノオは自分の潔白が証明されたと述べるのです。この誓約で、アマテラスの御統（みすまる）の玉から生まれた天忍穗耳尊（アメノオシホミミノミコト）の子である瓊瓊杵尊（ニギノミコト）が地上界である葦原中国（あしはらのなかつくに）を治めることになります。

アマテラスは太陽神と捉えられているというお話をしました。太陽を人格化した神として捉える考え方は世界各地にみられ、民族や時代により、男神であったり女神であったりするそうです（図はエジ

プト神話の太陽神

ラー Jeff Dahl - 投稿

者自身による著作物

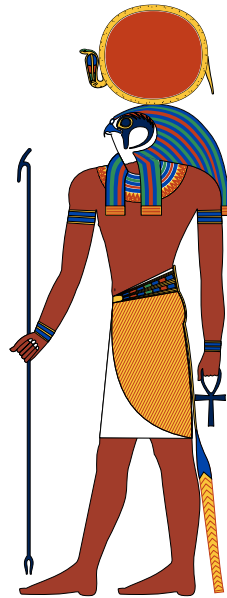
redrawing of File:Amon-

Re.JPG (Budge 1904),

based on New Kingdom

tomb paintings, CC 表示

継承 4.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=3261207> に由来）。



原始的な文化では太陽を、手がたくさんある生物や、光り輝く鳥や昆虫として捉えますが、文化が発達した段階では人格化されて、天上の光り輝く宮殿に王者として住む神、あるいは、太陽の球や円盤を舟や車などに乗せて天空を旅する神という形をとるそうです。

「播磨国風土記」に次のように書かれています。「日向の肥人（くまひと）、朝戸の君、天照す大神（おおみかみ）の坐（いま）せる舟に、猪を持ち参来て進（たてまつ）りて、飼ふ

べき所を求（ね）ぎ申し仰ぎき」（日向の国の球磨の人、朝戸の君が、天照す大神のいらっしゃる舟に、イノシシを持参して来て献上して、飼える所を賜るようお願いしてお答えを待った）（『日本古典文学全集 風土記』）

この記述から、日本の古代では太陽を舟に乗った神と考えていることがうかがわれます。そしてこの考え方は、ユーラシア大陸南岸にみられる「太陽の舟」の信仰文化と関係があるそうです。

アマテラスは日本の神話の中で中心的な神様です。遷宮のための準備が始まったこの機会に、古代の神話の世界に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

参考文献 『ジャパンナレッジ利用』 『日本国語大辞典』 『日本大百科全書』 『世界大百科事典』

祭礼・祈禱などの案内

○次回甲子祭

令和八年十月十七日（土） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは電話もしくはメールにてお願いいたします。

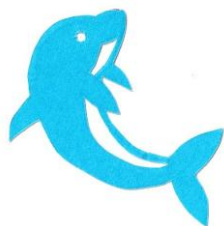
不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。



(連載まんが)

大吉うさぎ ～漢字のお話～

くま こまち 作



〈お問い合わせ・お申し込み〉

携帯

eメール

〇八〇—一九八七—八七二六
daikokujinja@gmail.com

次号発行予定

「だいいく通信第六十五号」、いかがでしたか。次号「冬の号」は、令和八年十二月十六日甲子祭に発行予定です。

「だいいく通信」第六十五号 令和八年八月十八日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>